

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

2019年 8月 1日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 アジア・アフリカ地域研究研究科

職 名・学 年 特定助教

氏 名 山口 哲由

助 成 の 種 類	2019年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研 究 集 会 名	第15回 国際チベット学会 2019年大会/ 15th IATS (International Association for Tibetan Studies) Seminar 2019		
発 表 形 式	<input type="checkbox"/> 招 待 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 口 頭 ・ <input type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他()		
発 表 題 目	Creating a Basic Vocabulary List for Nomadic Pastoralist Societies		
開 催 場 所	National Institute for Asian Languages and Civilizations, Paris' s 13th District, France		
渡 航 期 間	2019年 7月 7日 ~ 2019年 7月 13日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	300,000円	
	使用した助成金額	300,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助 成 金 の 使 途 内 訳	航空券代金および国内外交通費	160,000円
		学会費参加費	45,000円
宿泊費		65,000円	
滞在費		30,000円	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 今回の助成を頂いたことに非常に感謝しています。		

成果の概要／報告者名：山口哲由

IATS (International Association for Tibetan Studies) の第 15 回会議は、2019 年 7 月 7 日から 13 日にかけてフランス・パリの INALCO (Institut National des Langues et Civilisations Orientales) で開催され、私は 8 日から 11 日までの部会に参加した。8 月 10 日午前中には、セッション 27 『Outcomes and Prospects of a Multimedia Dictionary on Tibetan Pastoral Culture』に参加し、自らの研究課題である「Creating a Basic Vocabulary List for Nomadic-Pastoralist Societies」を発表した。このセッションには合計 30 名ほどの参加者がおり、活発な議論がおこなわれた。

このセッションは東京外国語大学の星泉教授が主催したものであるが、私は同教授の科研費プロジェクト「チベット牧畜民の生活知の研究とそれに基づく牧畜マルチメディア辞典の編纂」に参加し、チベット地域の牧畜民が日常的に使用している文化語彙の収集・記録に携わってきた。

中国国内のチベット地域では、1980 年代以降、牧畜民による家畜飼養が環境荒廃の要因とみなされるようになった。中国政府は、環境保全を目的として牧畜民の生業転換や都市への移住を奨励したため、牧畜社会は大きく様変わりし、多くの在来的な生業技術が失われてきた。同時に生業の転換は、それまでの牧畜生活のなかで日常的に用いられてきた語彙を使わなくなることも意味しており、牧畜文化語彙の消失の危惧されてきた。そこで我々は中国・青海省黄南チベット族自治州において継続的に現地調査をおこない、語彙の収集と記録をし、辞書を編集・出版した。このセッションは、我々が出版した牧畜文化語彙に関する辞書の概要を広く報告することを目的としたものであった。

私の報告内容は、今後の牧畜文化語彙に関する研究の方向性に関して述べたものである。牧畜語彙は、牧畜という特殊な生業のなかに埋め込まれた語彙である。例えば、牧畜の生活では家畜の搾乳とそれによって得られる乳、乳を加工して得られる乳製品は非常に重要な意味を持っている。チベットの乳加工では、まず生乳からバターやチーズなどを作成しているが、個々の乳製品や加工で用いられる道具の名称などに関して固有の用語が用いられており、作業過程が少しでも異なると異なる名称で呼ばれることも少なくない。こういった用語の正確な意味は、単純にチベット語のアルファベット順に並べられた辞書では説明することが難しく、乳加工体系の理解が必須である。それゆえに我々は、出版した辞書をソースラスとして再編集しており、関連のある用語のグループを作ることで牧畜文化語彙の体系化をおこなってきた。この作業を通して、搾乳・乳加工・屠殺・放牧作業・宿营地などのように牧畜に必須である文化要素を体系的に示すことは、牧畜語彙の収集と記録を他の地域でおこなう場合にも参考にすることができる。そういった目的と意義を持った研究をおこなっていることを発表で述べた。

発表で述べた具体的な要点は以下の 2 点である。

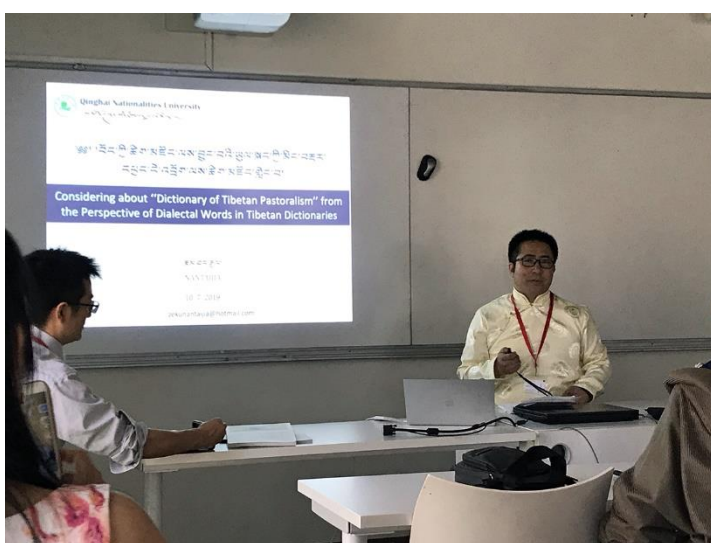
(1) 急速に失われつつある牧畜文化語彙の正確な記録

一般的な言語調査では、身体部位や親族名称、常用される動詞など、2000語余りの基本語彙からなる調査票が用いられてきたが、牧畜文化語彙の大部分はこの調査票には含まれない。例えば、「放牧地と地形の認識」や「搾乳と乳加工」に関わる語彙は、牧畜という生活スタイルを営むうえで活用される語彙であり、そういった生活スタイルに従事しなくなると急速に失われることに言を俟たない。それゆえに牧畜民文化語彙の収集と記録に緊急性を要する。

(2) 牧畜文化語彙の体系化

一般的な言語調査で用いられる基本語彙とは異なり、牧畜文化語彙は牧畜という生業のなかの埋め込まれており、単独ではその意味を正確に理解できない。それゆえに申請者らは、文化要素ごとに体系化したシソーラス辞書としてまとめることを目指している。例えば、乳製品を加工するうえで用いる道具の名称などは、乳加工体系全体を示したうえで、どの工程で用いられるのかを説明する。牧畜の衰退はチベットに限られた事例ではなく、世界各地で進んでいる。牧畜文化語彙を体系化したシソーラス辞書として示すことができれば、今後、他の牧畜地域で語彙を記録していくうえでの雛形となり得る。

このセッションでは、私の他にも星泉教授のプロジェクトに参加してきた合計7名の研究者が様々な視点からチベットにおける牧畜文化語彙を収集・記録することの重要性や文化語彙を継承していくための具体的な方法に関して発表をおこなった。総合討論では、アメリカやフランス、チベットの研究者から、辞書出版を評価するコメントや今後の多言語化を期待するコメントが寄せられた。



(写真：我々のプロジェクトの一員であるナム・タルジャ氏の発表の場面)